



株主・投資家のみなさまへ

株式会社 資生堂 2021 年 12 月期 上半期のご報告
2021 年 1 月 1 日から 2021 年 6 月 30 日まで

A full-page photograph of five models (three women and two men) standing on a reddish-brown cliff edge. They are all wearing white or light-colored clothing. The background is a bright blue sky and ocean. The text 'OUR MISSION is BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD' is overlaid in the center.

OUR MISSION is
BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD



2023年の 完全復活に向けて、 構造転換の改革を 確実に進めます

代表取締役 社長 兼 CEO 魚谷 雅彦

平素よりご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。また、新型コロナウイルスの影響を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、医療従事者の方々をはじめ、感染拡大防止にご尽力されている皆さまに心より感謝申し上げます。

2021年上期、日本では緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が再発出されるなど、厳しい環境が継続しました。一方で、世界に先駆けて回復した中国に続いて、ワクチン普及が進む欧米では、経済活動の再開とともにビューティー市場が力強く回復し始めました。

そのような中、当社の上期実績は、中国、欧米等のグローバルビジネスがけん引し確実に回復、スキンケアビューティーブランドやEコマースの成長、コストマネジメント力の向上も貢献して、売上高・営業利益ともに、前年を大きく上回りました。世界中に事業を有しているという当社の強みに加え、中長期経営戦略「WIN 2023 and Beyond」で掲げた、スキンケアビューティーへの注力やデジタル変革を迅速に進めたことが、収益拡大につながりました。

コロナのもたらした危機を機会と捉え、 これまでよりも収益力・成長力の高い企業へと進化します

コロナを巡る動向は未だ流動的で、予断を許さない状況ですが、当社は2023年の完全復活に向けて、確実に前に進んでいます。

7月1日には、デジタルを活用した事業モデルへの転換・組織構築を目指してアクセンチュア社と共同で設立した、合併会社「資生堂インタラクティブビューティー」が始動しました。デジタル変革の加速、当社単独ではなしえないスピードでのデジタル人材の育成を実現してまいります。加えて、さらなる成長と発展を目的として譲渡を決定したパーソナルケア事業も、同日、パートナー企業との合併会社「ファイントゥデイ資生堂」として新たなスタートを切りました。パーソナルケア

専門の会社として、日本、中国、アジアで飛躍的發展を遂げられるよう、私たちもしっかりとサポートしていきます。

欧米事業の収益性改善に向けては、既に人件費適正化に取り組んできましたが、今春、「Dolce & Gabbana」のライセンス契約解消を公表し、高固定費構造の是正を確実に進めています。強みであるプレミアムスキンケアビューティーに経営資源を集中し、全社の成長を加速させてまいります。

2023年の完全復活に向けた「変革と準備の年」である本年、事業構造転換を完遂し、創立150周年となる来年に向けて基盤を一層盤石なものへとしていきます。



「美」には世界を変える力がある

私たちは、「美」は人を勇気づけ、明日の希望となる力を持つと考えています。コロナ禍という厳しい状況だからこそ、当社の企業使命「BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD(ビューティーイノベーションでよりよい世界を)」の実現は重要さを増しています。生活者のライフスタイルや意識の変化に対応した商品開発、デジタルを通じた新しい購入体験の提供など、本業であるビューティービジネスをさらに成長させ、美の力を通じて、「人々が幸福を実感できる」サステナブルな社会の実現を目指します。

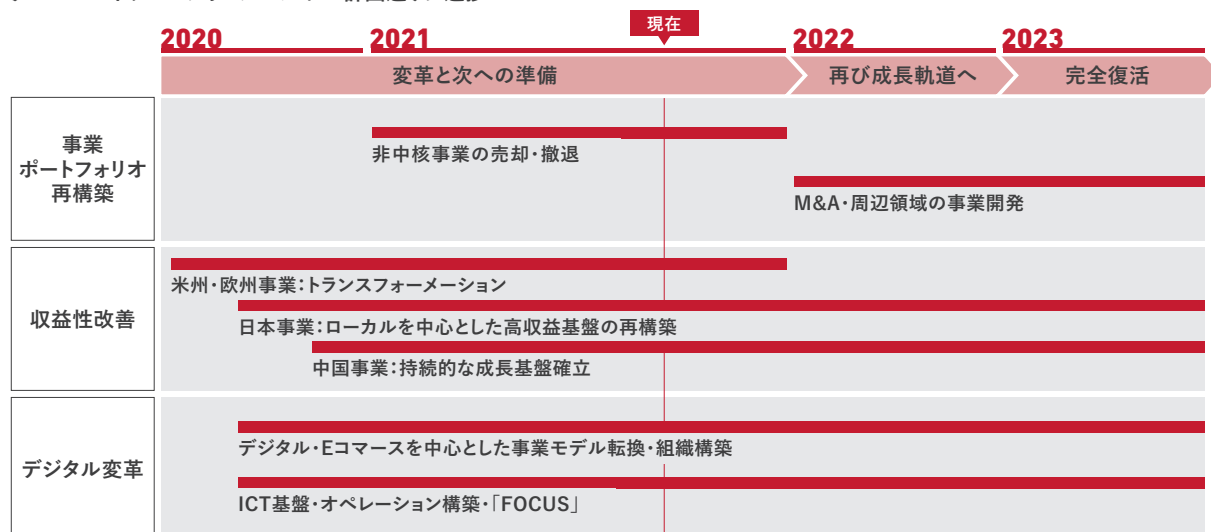
この1年半、当社は、コロナ禍という未曾有の事態に

全社一丸となって立ち向かってきました。「資生堂 Hand in Hand Project」(P.05)の取り組みなど、これまでのルールや既成概念にとらわれず、新たな生活様式で過ごすお客さまのために貢献したいという社員の自主的な行動を次々に具現化できたことは、大変心強く、私はCEOとして、当社の社員をとても誇りに思います。

「世界で勝てる日本発のグローバルビューティーカンパニー」の実現に向けて、これからも社員とともに邁進してまいります。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、今後も変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

グローバルトランスフォーメーション:計画通りに進捗



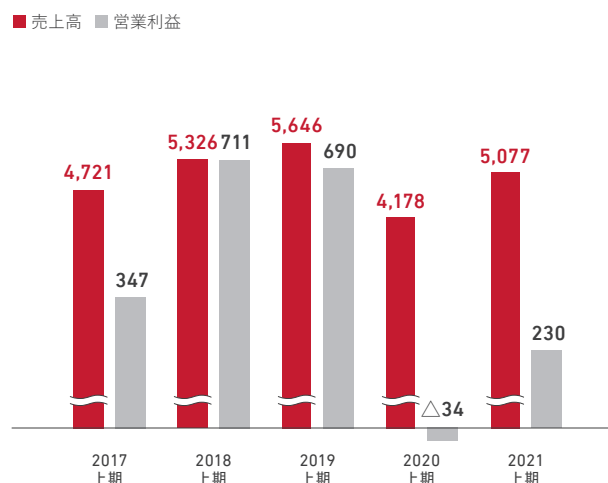


2021年上期実績

日本の低調なモメンタムを、海外事業の貢献でカバー

断続的に続く緊急事態宣言等の影響により日本事業は低調なモメンタムが続きましたが、中国や欧米を中心とした海外事業の力強い回復により、2021年上期の売上高は現地通貨ベースで前年比17.7%増、円換算後では前年比21.5%増の5,077億円となりました。営業利益は、増収に加え、マーケティング投資や経費等において適切な費用管理を徹底したことなどにより、前年から264億円増益の230億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、DOLCE&GABBANA S. R.L.とのライセンス契約解消（一部は労使協議後確定）に伴う特別損失を計上したことなどから、173億円の純損失となりました。一方、上記を含む構造改革等を除く既存ビジネスベースでは246億円の純利益となりました。

売上高／営業利益の推移（億円）



2021年通期見通し

外部環境や市場動向を慎重に見極め、改めて開示

2021年上期は、グローバルトータルでの好調なモメンタム継続と同時に、収益基盤の強化やトランスフォーメーションを確実に進めた結果、売上高・営業利益ともに想定を上回る実績でした。

今後の市場見通しは、ワクチン接種の普及に伴う経済活動の本格回復が期待される一方、全世界における新型コロナウイルス変異株の拡大の動向など不透明な経済環境の中で、現時点ではその動向および経営影響について見極めることが非常に困難な状況です。よって、5月に公表した業績見通しを引き続き慎重に見極め、然るべき時期に改めて公表します。

なお、当期の中間配当は20円（確定）、期末配当予想は30円とし、1株当たりの年間配当は50円の予定です。

〈2021年5月公表値〉

(億円)	2021年		前年比	外貨前年比
	構成比			
売上高	10,670	100%	+16%	+15%
営業利益	270	2.5%	+80%	
経常利益	270	2.5%	+180%	
特別損益	450	4.2%	—	
親会社株主に帰属する 当期純利益	355	3.3%	—	
EBITDA	1,665	15.6%	+133%	
1株当たり配当(予定)	50円※	—	+25%	

2021年通期想定レート

ドル=105円(前年比△1.6%)、ユーロ=127円(+4.3%)、中国元=16円(+3.4%)

※ 1株当たり配当：中間20円(確定)、期末30円(予定)

プレミアムスキンビューティー事業の拡大

「SHISEIDO アルティミューン」リニューアル ― グローバルでブランド全体の成長をけん引

「SHISEIDO」の美容液、アルティミューンは、2014年の発売以来「肌本来の美しさを引き出す」独自の価値が、人種、年齢、肌質、性別を問わず支持され、グローバルで年平均成長率50%を超える成長を実現しています。今年7月には、昨今のお客さまの素肌への意識の高まりを踏まえ、“The LifebloodTM”^{※1}の考えをもとに、リニューアル発売しました。独自のイミュンジェネレーションREDテクノロジーTMを搭載し、今だけでなく未来の美しさまで守り抜き、肌の明るさ・ハリ・なめらかさが備わった、生命感あふれるつややかな肌へ導きます。

また、「SHISEIDO」は、非接触で肌内部の美のめぐり^{※2}を即座に測定できる「Beauty Alive Circulation Check(ビューティー・アライブ・サーキュレーションチェック)

ク)を当社で初めて^{※3}開発。順次グローバルでサービス提供を開始します。



「SHISEIDO」アルティミューンTM パワライジング コンセントレート III

詳細はこちら



※1 「SHISEIDO」が新たに提案するビューティーコンセプト。一人ひとりの美しさが解放され、絶え間なく更新され続けることを目指します。

※2 かがやき、なめらかさ、ハリ的美肌の要素3つが整う肌であるかどうかを測定し、可視化したもの。美のめぐりがよいと、生命感あふれるつややかな肌へ導くことができます。

※3 非接触で肌内部の状態の測定を行う店頭機器は当社初。

デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

「DX銘柄2021／コロナ対応部門(カスタマーケア部門)」に選定

資生堂は、コロナ禍における、製品・サービス提供後のお客さまとの接点構築の観点が評価され、経済産業省と東京証券取引所が共同で実施する「DX銘柄2021」にて、「コロナ対応部門(カスタマーケア部門)」に選定されました。



オンラインカウンセリングの様子

詳細はこちら



ブランドを通じたサステナビリティ活動

「ドラえもん」が見守る、資生堂「エリクシール」グローバルサステナビリティキャンペーン始動

スキンケアブランド「エリクシール」は、つめかえ用パッケージ紹介活動を通じて、プラスチックごみの削減を目指すグローバルサステナビリティキャンペーンを4月より開始。本キャンペーンは、アジアを中心に高い認知率と好感度を誇る「ドラえもん」とコラボレーションし、「化粧品をつめかえて使用する」という国・地域によっては新しい習慣を日本から提案・発信しています。2023年には、年間約400トン[※]のプラスチック使用量削減、2025年までに、「エリクシール」の主力商品はすべて、つめかえ(つけかえ)対応することを目指しています。

※ 化粧水・乳液 つめかえ用パッケージ 2023年店頭売上数量(目標)×(本体容器プラスチック重量-つめかえ用パッケージプラスチック重量)で算出。
(本体容器とつめかえ用パッケージの容量の違いを加味)



©Fujiko-Pro, Shogakukan, TV-Asahi, Shin-ei, and ADK

詳細はこちら



医療従事者の方々への感謝の気持ちを行動に

「資生堂 Hand in Hand Project※」を実施

※一人ひとりが感染予防に取り組み、「手を守る」ことで医療現場の手助けにつながる活動

プロジェクト実施期間：2021年2月1日～6月30日



「自分の手を守ることが、医療現場の手助けにつながる」

当社は全国の医療従事者に敬意と感謝の意を伝えることを目的に「資生堂 Hand in Hand Project」を2021年2月より開始。コロナ禍において、資生堂ができることは何かを考え、本プロジェクトを通じ「正しい手指の消毒による感染予防」、「手洗いや消毒による手荒れを防ぐハンドケア」を実施する「手守り習慣」をより多くの方に伝え、ご賛同いただいたお取引先さま※1やお客さまとともに

感染予防に取り組むことで医療従事者の力になることを目指しました。また本プロジェクトの期間中に当社が販売したハンドソープ・消毒液・ハンドクリームの利益約5億円※2を医療現場のサポートのために寄付しました。

資生堂 Hand in Hand Project詳細はこちら



※1 賛同企業数：1,628社

※2 2021年2月1日～6月30日の対象商品の売上から、売上に連動して発生するコストを除いたもの。また本プロジェクトの浸透のための活動コストは、別途当社が負担。



ウェブコンテンツのご案内

当社企業情報サイトに「資生堂 Hand in Hand Project」を推進した社員へのインタビューを掲載しています。

このプロジェクトの全体総括を務めた社員、お取引先さまへの呼びかけなどをリードした社員に本プロジェクトにかけた思いを聞きました。プロジェクトスタートのきっかけ、お取引先さまやお客さまからの反響などを紹介しています。ぜひ一読ください。

インタビュー記事はこちら



ライブ配信参加特典あり

2021年9月24日(金) 15:00~16:30

📶 ライブ配信

(終了時間は予定)

個人株主さま向け

オンライン事業説明会を実施します

株主の皆さまに当社の事業内容への理解を一層深めていただくため、オンライン事業説明会(ライブ配信)を開催します。プレゼンテーションの後の質疑応答では、当社CFOおよびブランド担当者への質問を当日テキスト形式で受け付け、株主の皆さまとコミュニケーションします。

お楽しみ企画として資生堂パーラーのソムリエも登場し、ワインに関するプロの知識をご紹介します。ライブ配信にご参加いただいた方だけの限定特典もございます。ぜひご参加ください。

スピーカー



横田 貴之

取締役 エグゼクティブオフィサー
CFO(最高財務責任者)
本年3月の定時株主総会で
新たに取締役に就任。

中長期経営戦略「WIN 2023 and Beyond」の概要や、現在当社が強化している取り組みについてご説明します。



高野 美欧

SHISEIDO
グローバルブランドユニット
マーケティング部
グループマネージャー

男性化粧品市場への当社の取り組み、リニューアルした当社の代表的な男性化粧品ブランド「SHISEIDO MEN」等についてご説明します。



本多 康志

資生堂パーラー ザ・ハラジユク店長
「第3回 JETCUP イタリアワイン・
ベスト・ソムリエ・コンクール」にて
優勝。

赤ワイン、白ワイン、品種によるワイングラスの選び方など、すぐにも自宅で実践したいワインを楽しむヒントをご紹介します。

開催日時 2021年9月24日(金) 15:00~16:30(予定)

後日、オンデマンド版でも視聴可能です。
(10月中旬~配信開始予定)



本企画は、株主さま限定としており、ライブ視聴へのアクセス方法は郵送した株主通信「株主・投資家のみなさまへ」に記載しております。

担当役員のプレゼンテーションをオンデマンドで視聴できます。

本年は、経営戦略やDXなどを担当する梅津利信、研究開発の観点でブランドイノベーションを担当する岡部義昭がプレゼンテーションする予定です。12月1日より当社ウェブサイトにおいてもオンデマンド配信します。ぜひご視聴ください。オンデマンド配信のご案内はIRメールでもお知らせします。IRメールにぜひご登録ください。



梅津 利信



岡部 義昭



12月1日
より
配信開始



プレゼンテーション動画はこちら



IRメールのご登録



当社株主優待のご案内

対象の株主さまには、毎年3月下旬に株主総会の決議通知に同封してご案内しています。

対象者	当社株式100株以上を、12月末時点で1年超保有の株主さま
優待内容	資生堂グループ商品(化粧品・食品)または社会貢献活動への寄付を、保有株式数に応じて異なる優待カタログより選択(優待品のラインナップは毎年変わります)

100株以上 1,000株未満	1,500円前後の化粧品など	1,000株以上	10,000円前後の化粧品など
----------------------------	----------------	-----------------	-----------------

2020年12月期より、公益財団法人資生堂社会福祉事業財団が運営する奨学金制度への寄付を優待品選択肢に追加しました。この結果、2021年は総額51万9千円を同財団へ寄付させていただきました。

株主優待制度の詳細はこちら



100株以上1,000株未満



1,000株以上



Webコンテンツのご紹介

統合レポート2020

魚谷社長メッセージのほか、エグゼクティブオフィサーからの戦略解説、中長期の価値創造に関するコンテンツを重視した統合レポートを発行しました。



サステナビリティレポート2020

本業を通じたサステナビリティアクションの中長期目標(環境領域ほか)に対する、2020年の進捗と活動実績を報告しています。



統合レポート2020(オンライン)はこちら



サステナビリティレポート2020(PDF)はこちら



株主メモ

銘柄コード	4911	単元株式数	100株
決算期	12月31日	電子公告掲載	資生堂グループ 企業情報サイトに掲載 https://corp.shiseido.com/jp/ir/issue/legal/
定時株主総会	3月下旬	株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
基準日(株主確定日)	期末配当、定時株主総会 中間配当 そのほか必要あるときには、あらかじめ公告して定めた日		

株式に関するお手続きについて

お問い合わせ先		
	証券会社の口座に記録された株式	特別口座※に記録された株式
● 単元未満株式の買取・買増請求 ● 届出住所・姓名等のご変更 ● 配当金の受領方法・振込先のご変更 ● マイナンバーに関する届出・お問い合わせ ● 特別口座から証券口座への振替請求	口座を開設されている証券会社	特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 0120-782-031(平日9:00~17:00) (取次事務) 三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店
● 郵送物の返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式実務に関する一般的なお問い合わせ	株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 住所、電話番号は上記の通り	

※株券電子化(2009年1月5日に実施)までに証券保管振替機構(ほふり)に預託されなかった上場会社の株券について、株主さまの権利を守るため、発行会社の申出により信託銀行などの金融機関(通常は株主名簿管理人)に開設された口座を特別口座といいます。特別口座は株式の取引口座ではありませんので、特別口座に記録された株式を売買・譲渡・贈与するには、あらかじめ証券会社等にご本人の取引口座を開設し、株式を振り替える必要があります。

株式会社 資生堂

本店所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座七丁目5番5号

資生堂株主さま窓口 **03-6218-5418**
(平日9:00~17:15)(IR部)

今後の見通しに関する注意事項 本誌の記載内容のうち、歴史的事実でないものは、資生堂の将来に関する見通しおよび計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは、記載の見通しとは大きく異なる可能性があります。

本誌は、2021年8月5日(第2四半期決算公表日)時点の情報に基づき作成しております。